

7. できることと、できないことの区別

防災に限ったことではありませんが、何事においても、“できることはすぐにやる”“できないことは早く知る”ことが大切です。そのためには、自然災害の本質を知って、どうすればその被害から避難できるのかということを考えることです。被害や犠牲は、理由のない自信からだったり、ことがどのように展開するのかについて無知だったりに関係することがあるからです。よく、後手に回るとか早期な対応でも全体的な視野を見失ったために無為なことをしてしまっただけで修正する機会を失うことも少なくありません。

ハード的な対策は、自然現象による力の影響をいくらかでも抑止するあるいは抑制する上では、大切ではありますが、防災の基本で最も大事なことは、自然災害への関心を持つことです。この日本列島ではいつ起きるかはわかりませんが、必ず経験したことがないあるいは想像を絶する災害が起きます。そうなったときには、直感とか推理する能力が必要になります。もちろん、理由の無いことや妄想だったりでは意味がありませんが、これまで培ってきた知識を駆使して現状を見て次の行動ができるためにです。発生時には、おそらく大量の情報が飛び交うことになるでしょうが、それを分析評価しての上での行動になりますが、それを支えるものは普段の知識と関心であると思います。そうでないと経験が無いとか、周辺状況に混乱してしまうと避難の場所、タイミングに誤りが出てきてしまいます。地域防災は、特にそのような個人の防災意識、危機感をベースにしたコミュニティこそが被害者ゼロにもつながります。自然災害が多いわが国では防災のためにハード対策にしろソフト対策にしろ莫大なコストがかかり、後手の防災対策はコスト高になることは明らかですが、いかにコストを低く効果を出すかは事前対策にかかっています。

そのためには、リスクマネジメントの導入が重要なツールになると思われます。地域防災が一つの単位で、地域環境を正しく判断、評価することがまず基本です。そして、発災時には地域の防災力が全開するためには、自助と共助が共存、相関することが基本で、そのためには地域特性にあった武装を平常時から意識しておくことが必要になります。先手を打つステージ、待ちのステージ、行動のステージに分けての実践プログラムを共有しながら、訓練や情報の提供を継続して修正、改善することが求められていると思います。これは、面倒な難しいもののようにも見えますが、安全、安心して暮らすにはある程度の努力をしないとイケないし、災害発生時のさまざまな負担、影響を考えると大切な保険なのかもしれません。防災は、頑張らないこと、自分だけは大丈夫と思わないことなどがありますが、一気に備品をそろえるとかするのではなく、日常の中で備えを積み重ねること、関心を持ち続けることが大切だと思います。わが国では毎年、どこかで自然災害が発生していますが、これは大変に不幸なことなのですが、報道で知るだけでなく、これをわが身に置き換えて、シミュレーションする材料にすることも大事なことです。このような学習を、取り入れて児童や生徒たちが身近に考える中で、課題を見つけて解決するためにコミュニケーションをすることは大変重要なことで、基礎力を身につける意味でも継続して欲しいと願っています。